

3・4号機原子炉建屋排気ダクト接続部からの空気の漏えいについて

<概要>

(事象の発生状況)

- ・ 運転中の3、4号機において、排気ダクト接続部の漏えい防止機能を強化する作業を実施していたところ、主排気筒と原子炉建屋排気ダクトとの接続部より空気が漏れていることを確認しました。

(安全性、外部への影響)

- ・ 空気が漏れている箇所からは、放射性物質は確認されておられません。
- ・ 本事象による外部への放射能の影響はありません。

(対応)

- ・ 空気の漏えい箇所については、漏えい防止の処置を施しました。

(公表区分)

- ・ 本事象は公表区分Ⅲ（信頼性向上のために公表する事象）としてお知らせするものです。

詳細は以下のとおりです。

1. 事象の発生状況

運転中の3号機および4号機において、平成20年6月16日から7月9日の期間に屋外空調ダクトの点検を実施し、原子炉建屋排気ダクトから空気の漏えいがないことを確認しておりました。

その後、漏えいが確認されていない排気ダクト接続部に対し漏えい防止機能を強化するため、当該箇所については8月4日より塗装を剥がし、漏えい防止用のシールテープ*¹を貼る作業を行っていた際、8月6日午後1時20分頃、協力企業作業員が主排気筒と原子炉建屋排気ダクトとの接続部のシールテープが膨らんでいることを発見したため、シールを剥がしたところ、空気が漏れていることを確認しました。

今回確認された漏えい箇所は、6月27日に漏えいがないことを確認しており、ダクトのつなぎ目のゴムパッキンが劣化していたところに、塗装を剥がしたことにより、漏えいが発生したものと考えております。

2. 安全性、外部への影響

排気ダクト接続部のシールテープを一部剥がして放射能を測定した結果、放射性物質は確認されませんでした。

また、主排気筒放射線モニタ*²および、空間線量率を測定するために発電所敷地境界付近に設置されているモニタリングポストの値は通常の変動の範囲内であり、周辺環境への影響はなかったものと考えております。

3. 対応

対策として、空気の漏えい箇所については、漏えい防止の処置を施しました。

また、屋外空調ダクトについては、今後点検周期を定め計画的に点検を行うとともに、適切な対応を検討します。

今後、屋外空調ダクトにつきまして同様の漏えい防止機能を強化する作業を継続して行うこととしておりますが、作業の過程で漏えいが確認された場合には、速やかに漏えい防止処置を施すとともに、作業終了後に結果をとりまとめてお知らせします。

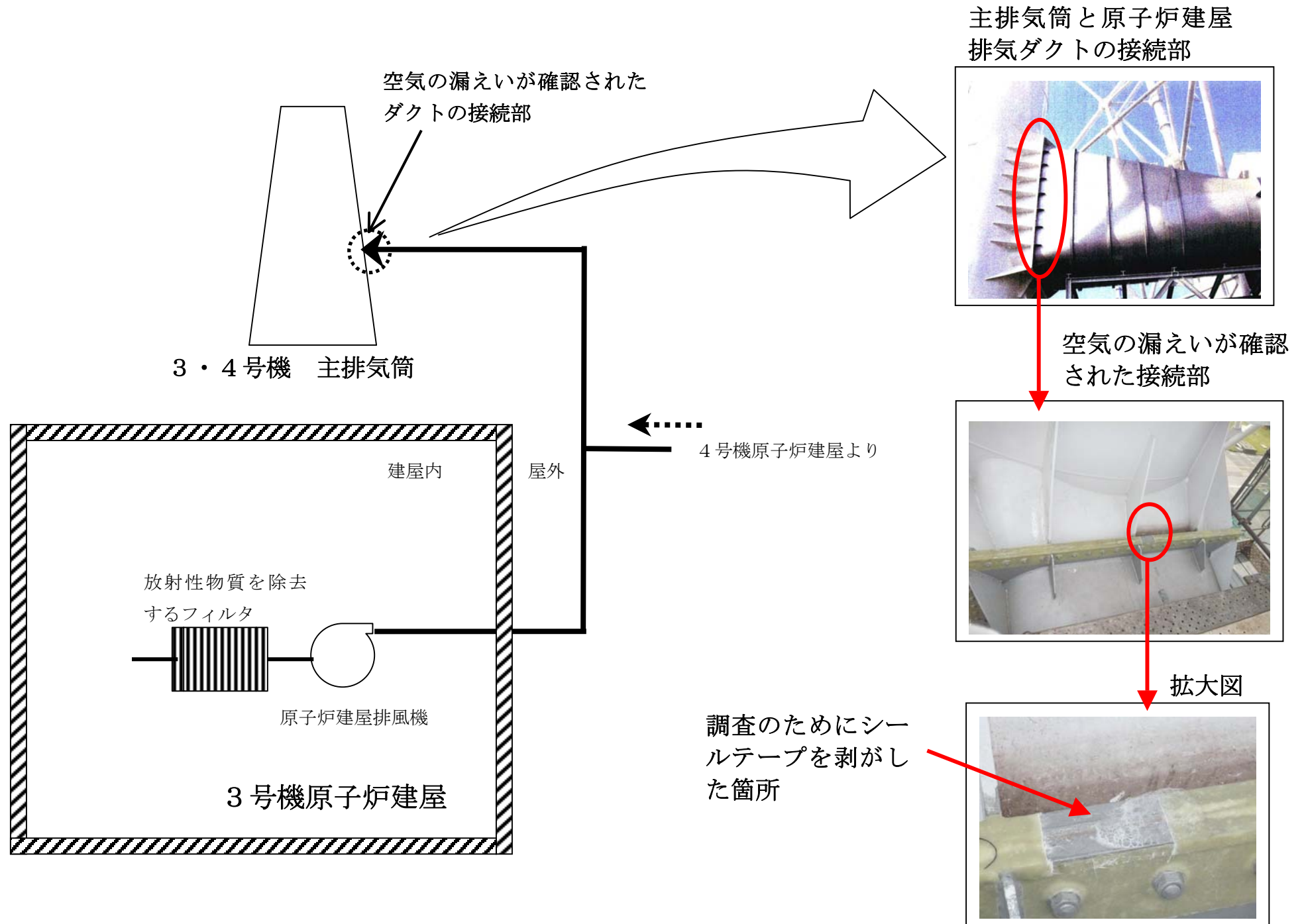
以 上

* 1 シールテープ

すき間からの漏えいを封じるため、ガラス繊維とポリエステル樹脂で補強されたプラスチックでできているテープ。紫外線が当たることで硬化する。

* 2 主排気筒放射線モニタ

環境へ放出される排気中の放射線を測定する装置。



福島第一原子力発電所3・4号機主排気筒と原子炉建屋排気ダクト接続部の概略図